藤田さん「最終講義」（続）

人文社会学部の教育の話に移ろう。写真は現代社会学科の学生が発刊した新聞「現写」創刊号である。発行は 1997 年 7 月とあるから、学部創設 2 年目だ。右上に写っているのが、24 歳ころの藤田さんである。懇親会でお会いした息子さんとそっくりだ。初回インタビュー「藤田先生に直撃！」とある。左下に小さく載っているのが、20 年近く前の私だ。

こうして最終講義に「現写」を紹介してもらい、創刊に関わった教員として嬉しいかぎりだ。最終講義には編集メンバーも参加していた。学部創設から日が浅いので、とにかく情報交流・情報発信しようと、新聞を発行することになった。現代を写す「現写」というネーミングが気にいっていた。

藤田さんは社会調査のプロとして、現代社会学科の「看板講義」社会調査実習の中心メンバーとして奮闘した。昨年亡くなった石川さんの活躍も忘れられない。私も「専門外」ながら担当教員の一員として、「藤田的」調査手法を学ばせてもらった。藤田さんら東海社会学会のメンバーにより、毎年秋に社会調査インターカレッジ報告会が開催されるようになった。参加大学も拡大して、東海地域の社会調査を学ぶ学生たちの「一大イベント」となっている。

藤田さんの最終講義は、私などより格調が高く、緻密な研究姿勢を感じさせるものであった。私にとって嬉しかったのは、京ちゃんご家族が出席されたことだ。連絡しようか迷っていたが、寒いのでためらっていた。開始 10 数分前にドアから入って来られた時は、正直びっくりした。慌てて京ちゃんのところに駆け寄った。

写真は藤田さんが京ちゃんから色紙を受け取った時である。色紙には「今日の一歩が明日への一歩へ　先生ファイト　私もファイト」とある。さすが京ちゃんだ。

（2015 年 2 月 24 日）